

Neues in Nara

Nr.58
2017年1月27日



Japanisch-Deutsche Gesellschaft Nara (JDG-Nara)

奈良日独協会 (会長 河野良文) 奈良市大安寺 2-18-1 大安寺内

Tel/0742-61-6312, Fax/0742-61-0473

<http://www.daianji.or.jp/jdgn/index.html>

編集委員：林 (hayashiy@zeus.eonet.ne.jp)、峯本 (hmine-24@m3.kcn.ne.jp)

編集委員より：会員の皆様からの積極的なご投稿をお待ちしています！

●行事予定

第14回シュタムテイッシュ

2月5日(日)、大安寺催事棟にて15時から開催、会員の田伏薫さんから「ノイシュヴァンシュタイン城のルートヴィヒ二世 (その病跡学)」と題して話題を提供頂きます。参加申込・問い合わせは林宛 (090-8168-4549、又は上記のメール)。事前連絡無くても当日お時間空きましたら、どうぞお出下さい。

●行事報告

クリスマス会

12月10日(土)、奈良市のフレンチカジュアルダイニング「fue(ふう)」で、神戸日独協会より柘田会長ご夫妻に参加頂いたほか、ドイツからの天理大学留学生1名、更にドイツ語講座受講生10名を交えて、総勢42人で盛大に開催された。

先ず、河野会長の挨拶に続き、林理事より「今年の振り返り」と題してスライドにより報告、中称会員より11月に訪問したゲッチンゲン市博物館での「歌手バーバラ展示会」の紹介と続き、前記協会の柘田会長による乾杯の発声でパーティーが始まった。すぐに各テーブルで賑やかに飲食し会話が弾み雰囲気盛り上がったところで、新入会員の小川住江さん、中村愛子さん、矢野隆幸さん、そして留学生のマルクス・マイヤーさんよりスピーチを頂いた。飛び入りとはいえ、毎回ご披露頂いている平尾英治さんによる学生寮でのドイツ語訳付きの歌を披露頂いた。今回は「月の砂漠」歌を手振り身振りを交え、ラクダの小道具まで用意し、80歳を超えているとは到底思えない伸びやかな澄んだ歌声にすっかり魅了された。

さらに、柘田会長による「日独の若者交流に関して、その盛り上げが課題となっているが、関西在住のドイツ人、若者会員も少なく、各協会単位で行事開催が難しく、関西地区日独協会が連携して取り組んでいこう」との提案を頂いた。

最後に恒例となっている岡田由美子さんのリードでクリスマスソングを全員で合唱してお開きとなった。



神戸・奈良両協会会長ご夫妻



平尾さんの歌

●会員だより

会員の岩本廣美さんから

「青少年ドイツ派遣とその後」

2009年8月、奈良日独協会はバイエルン独日協会と協力し、青少年交流事業として奈良県内の高校生・大学生計12名を2週間にわたりドイツ・バイエルン州に派遣した。当時高校1年生だった私の娘(岩本和代)も一行に加えてもらい、現地ではミュンヘン南郊ヴァイルハイムのウーテ(Ute)宅でホームステイ体験をさせていただいた。



ウーテ宅の食卓で私、娘と子どもたち



ウーテ宅庭でウーテ夫人と娘

娘はこの体験が忘れられなかったようである。大学進学後ドイツに再訪すべく、単身私費留学の計画を立て、4年次を休学し実行した。2015年2月から3月までハイデルベルグで、4月から10月までミュンヘン北郊インゴルシュタットで過ごし、英語、ドイツ語、経営学等の勉強をした。その間、派遣時にお世話になったウーテ宅にも再訪した。かくいう私自身も2015年9月末、娘の案内でバイエルン州を訪ね、ウーテ宅訪問の機会を得た。

娘の帰国後、ドイツとの関わりは区切りがついたと思っていたところ、2016年度大学4年次復学後の前期は、専門の授業のほかに「ドイツ研究」という授業を履修したという。また、娘のドイツ語学習熱は帰国後も冷めることなく、3級を受験し合格、さらに2級を経て、2016年12月には準1級に挑戦するという。

娘のドイツ派遣プログラムへの参加経験は、その後思いもかけない展開となり、嬉しく思うが、これも奈良日独協会の皆様からのご支援の賜物である。ご関係の皆様には、この場を借りて改めて謝意を表したい。

●新入会員

小川住江さん(生駒郡平群町)と矢野隆幸さん(京都府木津川市)の2名の方が加入されました。